

会 議 録

名 称	都留市博物館協議会委嘱状交付式・第1回会議	回数	第1回
日 時	令和5年7月27日（木）14時00分～15時30分		
場 所	ミュージアム都留図書情報室		
出席者	<p>【委員】伊藤委員、井上委員、小口委員、小佐野委員、小俣委員、加藤委員、小澤委員、酒井委員、高部委員、奈良委員</p> <p>【事務局】教育長小林、教育次長矢嶋、生涯学習課長補佐平井、ミュージアム都留館長重森、文化振興担当リーダ知念、ミュージアム都留担当服部、ミュージアム都留担当福島</p>		
議事内容	次のとおり		
<p>1. 開会（司会進行：生涯学習課長平井）</p> <p>2. 会長・副会長の選出 事務局一任により、会長を加藤委員、副会長を奈良委員に選出</p> <p>3. 議事（議長は会長と兼務とし、加藤会長）</p> <p>ア 資料1 「これまでのミュージアム都留事業報告及び今後の運営体制（案）について」について事務局より説明。</p> <p>【委員からの主な質問・意見】 ○委員、 ⇒事務局</p> <p>○ ミュージアム都留内に賑わいが不足していると考え。地域の方が自由に出入りし、図書を読み、涼む場としていく等につながる周知や取り組みが必要と思う。また子供たちが気軽に入館できる空間づくりが必要と考える。 ⇒地域の方にとって拠り所となる場所としていきたい。</p> <p>○ 市民学芸員という名称について、肩書が重々しいと感じる。また、実際に案内をしていると質問に窮することもある。市民学芸員の取り組みに参加したい方にとって親しみやすいものになるよう、名称も含めて検討いただきたい。 ⇒世代を問わず参画できるような市民学芸員の育成の充実化と合わせて、名称等も検討を図りたい。</p> <p>○ 日頃から関わっている協力会の方々の意見などを伺いながら展示に取り組むことや、協力会が協働で展示を行う仕組みが必要ではないか。近年のミュージアム都留の企画展の傾向は集客に特化したものであるが、内容的に偏りがあると感じる。市民団体が展示構成などに一から参画</p>			

していく仕組みが必要と思う。

- 協力会としても意見を事務局運営に活かしていきたい思いがある。
⇒意見共有の場、ひいては協力会などの団体が企画展に参画していく仕組みづくりに取り組んでいきたい。

- 小中学校の社会科における地域学習のサポートや、学校の副読本の作成に当たりミュージアム都の協力を図りたい。また、夏休みの自由研究相談教室等、地域の子供が参加する企画ができるか、都留市のことを研究したい児童生徒のサポート体制ができるかどうかを検討いただきたい。学校教育・生涯学習両輪の観点から博物館運営を考えていく必要があるのではないか。

- 自由研究相談室は現在、都留市立図書館で実施している。また、過去には市と社会科の教員間の交流会や研究会があったが、学校現場が多忙であり開催する難しさがある。校長会が主体となりそういった場をセッティングしていくことを進めていただきたい。
⇒ご意見と合わせて、博物館職員による出前講座など積極的に行っていききたいため、ぜひ要望をいただきたい。

- これまでの意見として、市民の方を巻き込みながら協力体制を図っていくことが重要と思う。刀剣なども人気があるのは承知しているが、今後は都留市の文化・歴史に根差したものの掘り起こしや、地域のかかわりの中で取り組みを進めていくことが重要であるということについて、事務局と委員は同じ方向を向いていると思う。
⇒各委員からいただいたご意見を踏まえ、今回の協議の方向で博物館運営を図っていく。

イ **資料1** 「八朔祭飾幕の修繕について」について、事務局より説明。

【委員からの主な質問・意見】

- 以前より、本議題については議会の中で取り上げるなどしてきた。鹿島踊の後幕については、破けて綿がこぼれてしまうなどの現状となっている。修復していくにあたり、人口減少などの課題から修繕経費を町で負担していくことは難しいところがあるため、市に寄贈する方向も検討をしていく時期と思う。修繕を図りながら、祭の際は貸し出しを行うなど、今あるものを継続して使っていくことが望ましいと思う。

- 修復にあたって現在の技術では修復が難しい部分もあり、また修復を担う人材を見つけることも困難であると思う。文化財保護の観点から保管し、レプリカを作成するのが望ましいのではないか。

- 町で資料を持ち続けることが難しいことなどを踏まえ、今後の在り方について、市教育委員会より、屋台保存会や市民に対して協議の場を設けていただきたい。

- どの資料をどの程度まで修復するのかといった方針が必要である。過去の手法と全く同じ方法で修復する場合においては、膨大な経費や時間を要することが想定される。また、レプリカ作成についても、作成物のクオリティにはランクがあり、既存資料のデータを落とし込んで、再現するとなると調査経費を要するものと思う。市が先行して進めるべきは、現況を事前調査し修復プロジェクトの計画建てによって方向性を明らかにすることであると思う。また、修復前の現在の状態を記録保存することが必要と考える。
- 事前の調査研究と記録保存や団体への事前説明を図りつつ、今後の修繕の方向性を事務局には検討いただきたい。
 - ⇒各委員よりいただいたご意見を踏まえ、事前調査と記録保存、地域への説明などを実施していく。
- 今年度は9月2日、3日にふるさと時代まつりがあり、その際に飾幕も使用される。実際に見ていただき、委員の方からご意見をいただきたい。

ウ その他

- 現在開催している企画展「田村四将軍」について、現在、ロシアとウクライナ間での戦争が起こっており、チラシや内容が戦争礼賛と受け取られかねない可能性もある。そういった趣旨でないことを説明するパネルなどが必要ではないか。また、時期をずらしての開催でもよかったのではないか。
- 展示に当たっては細かい配慮が必要ではないか。そういった意味でも、展示内容や図録作成に当たり、協力会等の外部の方から事前に意見をもらうことは重要と思う。また内覧会などの開催が必要ではないか。
 - ⇒いただいたご意見を踏まえ対処を考える。将来的に協力会等に事前に展示内容に意見をもらうなどの体制について進めていく。

4. 閉会

以上